

# 物知り野郎

登場人物 メガネの男

男1  
男2  
男3  
女

どこかの漁港。

作業を着た男が二人と、背広にメガネを掛けた男が一人。

メガネの男は地べたに座り、愛想良き気に作業着二人の顔をチラチラ見ている。

メガネ 三十三です。

男1 …あ、そ。

メガネ はい。

波音。

メガネ ちなみに…。

男1 …(仕方なさげに) なに？

メガネ 鳥です。

男1 好物？

メガネ 干支です。

男1 うん。

メガネ 餌。

男1 はい。

男2 で、なんだて？

メガネ え？

男2 餌がなんだて？

メガネ …干支です。

男2 干支がなんだて。

メガネ ですから、餌です。

男2 だからてめえの干支なんて聞いとらんがや。俺等がお前の干支はなんですか？って聞いたんかて？  
誰が干支に興味を示したんだて？ん？なんで自分から聞いてもねえ事喋り出すんだお前。いちいちくだらねえ事しゃべっとんじゃねえわ。

メガネ …。

男1 …まあ、そういう事だね。

波音。

メガネ 1982年、2月1日、私は生まれました。

男1 …。

男2 1982年てお前…。

メガネ はい？

男2 だったらお前、大年だがや。

メガネ そうなんですか？

男2 そうなんですか？、お前何嘘ついとんだ。

メガネ 詳しいですね、干支に。あなた、1982年生まれなんですか？

男2 …、ちやうわバカ。

メガネ ああ、そうですか。

男2 なんだお前、どういう事だ。

メガネ いや…。

男1 まあまあ、いいじゃん、この人の年なんか。

男2 お前、なににい？なんでそんな嘘つくんだて。

男1 逆にお前の年がばれちやったじゃん。

男2 …別にバレたって関係ねえがや。

男1 まあ、あんたもまあ、余計な事言わない方がいいよ。

男2 お前、どら標準語たがや。

男1 そらまあ、一応さ。

男2 別にバレたって関係ねえつつとんの。

男1 まあ、念の為ね。

波音。

メガネ 節分つてありますよね。

男2、メガネを覗む。

メガネ …季節の、分かれ目。節分と言うと、立春の前日の事を言うらしいですね。

男2、咳払い。

メガネ …これがですね、2月の3日、です。そこを境にして変わるんですよ、干支って。

男1 …え？

メガネ ですから、私は彼と同じ1982年生まれですけど、立春よりも前に生まれたので、酉年なんです。だから、嘘ついた訳じゃないんです。

男1 …そうなの？

メガネ 厳密には。

男1 知らなかった。

メガネ まあもちろん一般的には1月1日で変わるので良いんですけど、私は、犬より鳥の方が好きなので、そっちの方を採用しているんです。

男2、さらに大きく咳払いをする。

男1 あ、犬より鳥なんだ。

メガネ はい。

男1 なるほどね。

男2 あんたさあ、カエルに似てるよな。

メガネ ああ、このメガネのせいですかね。

男2 知らん。

メガネの男、眼鏡を外してレンズをハンカチで拭く。

男2 ちよお、もう何時？どらおせえがや。

男1 まだでしょ。

男1、海の方を見る。

男2 腹減ったて。

男1 そっちの心配かよ。

男2 当たり前だがや。

男1 (微笑)。

男2 何笑つとんだ。

男1 いや、上手い事行つたなと思つて。

男2 ああ…。

男1 笑いが止まらん。

二人、笑い出す。

メガネ ははは。

と、メガネもつられて笑う。

男2 なんでお前が笑うんだて！

メガネ …カエルなんですけど、

男2 …。

メガネ アマガエル、あれは、夏の間だけ緑色なんですよ。

男2 …はあ？

メガネ つまり、保護色ですね。アマガエルは、体色変化するんです。ですから、例えば赤い紙の上に乗せておいたら、赤くなるんですよ、アマガエル。

男1 え、マジで？

メガネ でも、カメレオンみたいに数分で変わる訳じゃなくて、ちよつと時間が掛かりますけど。

男1 どれくらい？

メガネ その時の気候や、精神状態にもよりますが、

男1 精神状態？

メガネ カエルの。

男1 カエルの精神状態？

メガネ ええ。

男1 おい、カエルの精神状態だつてよ！

男2 うるせえ。

男1 ンで？

メガネ そのような要因も考慮して、真っ赤になるには、そうですね、10分や20分の話ではないんですけど、

男1 そんなにじつとしてるの、カエル？

メガネ してると思いますよ。体色変化する生物は、基本的にはほとんど動きませんから。せっかく周りと同化しているのに、動いたらバレてしまいますからね。

男1 あんた先生？

メガネ え？

男1 なんか、色んな事知ってるじゃない。

メガネ ああ、まあ。

男1 カエルの解剖とかもやってんだ。

メガネ え？

男1 あれつてさあ、残酷だね。俺が小学生の頃は、希望した生徒にしか見せてくれなかったんだけど、授業後に残つてさあ。

メガネ 気分悪くなる生徒とか居ますからね。

男1 先生は、どこまでやった事あるの？

メガネ どこまでと言つのは…？

男1 だから、解剖。

メガネ えつと…。

男1 犬とかもやるの？

メガネ 犬は、ちよつと…。

男1 でも、あれでしょ？犬も使つたりするんじゃない？

メガネ 昔の話ですね。それに、小学校ではまずしないで。

男1 ああ、そうなんだ。

メガネ ええ…。

男1 ねえ、先生。一番の悪つて、何だと思つ？

メガネ 悪、ですか…？

男1 うん。

メガネ 難しいですね、その質問は…。

男1 俺は絶対、犬殺しだね。人なんか殺したつて良いんだよ。でも、犬はダメだよ。

メガネ いや…。

男1 小さい頃、家の近くに大きな川が流れてるんだけど、橋の上から河原覗いたら、犬が死んでんだ。

しかも、両手両足縛られて。俺、その日だけは人類皆殺しにしたかったね。やっぱ、犬はダメだよ。悪だよ、ねえ。

メガネ それは、確かに可哀想ですが…。

男1 先生もしてやろうか？

メガネ え？

男1 解剖。

メガネ …え？

男1 犬、殺してたんでしょ？

メガネ 殺してませんよ。

男1 だつて犬、嫌いなんですよ？

メガネ いや、嫌いでは、無いですよ。

男1 だつてさつき、犬大嫌いって言つてなかった？

メガネ 大嫌いなんで言つてませんよ。

男1 大嫌いだから犬の解剖してたんでしょ？

メガネ だから、私はやったことないですから。

男1 あ、そうなの？

メガネ 鳥の方が好きだと言つただけで、犬は好きな方ですよ、動物の中では。

男1 あ、そうなんだ。

メガネ はい。

男1 じゃあ犬飼つてるの？

メガネ いえ。

男1 飼つてないんじゃないん。

メガネ ちよつと前なら…。

男1 なに？

メガネ 柴犬。

男1 いいねえ、日本人は柴犬よね。

メガネ え、ええ。

男1 でもね、俺は今、ボーダーコリーが欲しいんだ。

メガネ ボーダーコリーですか。

男1 あれ、知らないの？

メガネ 知ってますよ。牧羊犬ですよ。スコットランドコリーの変種の一つですね。

男1 そうそう、さすが。あの、白黒の奴がいいよね。

メガネ なるほど…。

男1 格好良いんだよね。

メガネ ええ…。

男1 他には？

メガネ え？

男1 他には何か飼ってるの？

メガネ あ、何も。

男1 ああ、そう。独身だよ？

メガネ あ、はい。

男1 じゃあ、安心だ。

メガネ …あ、サボテンを。

男1 サボテン？

メガネ はい。

男1 サボテンなんか、丈夫だもん。しばらく大丈夫でしょ。

メガネ 毎日話掛けるんです。

男1 そのうち誰かが世話してくれるから。

メガネ …。

男1 心配しなくても。

男2 お前もボーでもいい話しとんなあ…。

男1 …。

男1 …。

メガネ …ゴルフのコースって、どうして18ホールか知ってますか？

男2、スイングを止める。

男1 あ、それ、聞いた事あるよ。

メガネ そうですか。

男1 なんだっけ？

メガネ スコットランドがゴルフ発祥の地と言われてるんですが、

男2 またスコットランドか。お前スコットランドスコットランド言ってるなあ。もうスコットランド

行けて。

メガネ 行きたいですねえ。

男2 行ける訳ねえがや。

男1 ほいで？

メガネ …ある紳士が、寒空の中ゴルフをしていて、暖を取るため1ホール終える毎に、ウイスキーを一

杯ずつ飲んでたんです。すると、十八ホール終えた時点で、ボトルがちょうど空になるんです。

男1 ああ、そうそう、冗談みたいな話ね。

メガネ でも、本当のところは、その…スコットランドにある、世界最古のゴルフ場と呼ばれるセントア

ンドリユースには、最初十二ホールあつたそうなんです。ところが、市から土地を返還するように言

われ、四ホール分返却したんです。それ以来十八ホールとなったんです。

男1 ああ、本当の話は大して面白くないね。

メガネ はい、得てしてそういうものです。ちなみに、ゴルフの原型は、その…スコットランドの羊飼

い達が、木の棒で小石を転がして、うさぎの巣穴に入れて遊んでいたところから来たそうです。

男2 ていうかよお、スコットランド自体どこだか知らんのだわ。

メガネ スコットランドとはグレートブリテン島の北部…。

男2 だから聞いてねんだよそんな事は。お前今度スコットランド言いやがったらホントにアレだからな。

男1 お前なんでそこまでスコットランドに敵意剥き出しなんだよ。

男2 だってこいつスコットランドスコットランド言ってるがや。

男1 言ってるがやって言われても…。あ、じゃあさ…。

男2 だから聞くなてお前も！お前が聞くもんでこいつが調子に乗って喋りだすんだろお。スコットラン

ドスコットランド言ひ出すんだわ。

男1 違う違う。

男2 何が違うんだ。

男1 ほら、ボーダーコリーとかさあ、

男2 なんてボーダーコリーの話が出て来るんだて。そしたらまたスコットランドスコットランド言い出すがや。

男1 違う違う。

男2 何が？

男1 あいつら白黒じゃん。

男2 うん。

男1 で、パンダもさあ、シヤチもさあ、ペンギンとかさあ、あれ、なんであいつら白黒なの？しかもいい具合に配置された白黒じゃん。なんで？

男2 …、ホントどーでもええわそんなん！！

男1 違う違う、だってパンダなんか、中国の竹はつかのところに居るんでしょ？全然自立つって話じゃん。なんで？

メガネ えつとですね、それは…

男1 ちよつと待って。そいつらはさ、見た目が滅茶苦茶可愛いじゃん。なのに、なんでパトカーは可愛くないの？

メガネ え、パトカーですか？

男1 パトカーだつて白黒だろ。あれ、なんで白黒？日本だけでしょ？

メガネ そうですな。

男2 お前結局聞いとるんだがや。

男1 違う違う。ねえ、なんで？

男2 何にも違わんがや。

メガネ えつと、パトカーに関しては…

男2 お、やつと来た！

男3 お待たせー。

背広を来た男3が、自転車に乗ってやつてきた。

そのまま自転車を海に投げ捨てた。

男2 遅いて！

男3 わりいわりい、この辺なんも無いんだもん。ほれ、肉まん。

男2、ビニール袋を受け取る。

男3 よいしよと（座る）。

男2 おい、こんだけ？

男3 無いんだもん。

男2 足りんがや。

男3 お前、肉まん何個食うつもりなの？

男2 肉まんなんかおやつだがや。

男3 そんなに好きなら、肉まん選挙権に出たらいいんじゃない？

男2 あるんかてそんなの。

男3 知らんけど。

男2 あつたら出てえわ。

男3 あ、出たいんだ。

男1 なんか、ニュースやつとつた？

男3 いや、別にこれと言って…

男2、肉まんを一口かじって、

男2 これあんまんだがや！

男3 え？

男2 なんであんまんなんだて！

男3 あんまん？

男2 俺、肉まん買って来てつて言ったよな？

男3 だから肉まん買って来たよ。

男2 あんまんだがやこれ！俺あんまんだメなんだて。

男3 そうなの？

男2 肉まん！

男3 いや、そりゃあ一個くらい間違つて入つとるのもあるのかもしれないわや。

男2 ふざけんなて！

男2、食べかけのあんまんを男3に渡そうとする。

男3 いらんて。

男2 お前、食べ。

メガネ え？

男2 最後に甘いもんでも食つとけ。

メガネ 最後に…？

男2 お前、俺のあんまんが受け取れんのか？

メガネ 頂きます…。

男2 食べ、この野郎。

メガネ、あんまんを受け取る。

男1 そいで？

男3 いや、テレビも見ただけ、

男2、もう一個の肉まんをかじって、

男2 おい！これもあんまんだがや！

男3 え？

男2 お前、これ全部あんまんだぞ！

男3 そうなの？

男2 どうなつとんだて！

男3 じゃあ、あんまんだつたんだわ。

男2 あんまんだつたんだわじゃねえて、俺肉まんって言ったがや！

男3 いやいや、俺も肉まん頂戴って言ったんだよ、おばちゃんに。

男2 あんまんだがやこれ！

男3 だから俺のせいじゃなんだよ。かと言ってあのおばちゃんを責めるのもどうかと思っけどね。だつて、おばちゃんていうより、おばあちゃんに近いんだもん。うちのおばあちゃんも、もう九十近いけど、あのおばあちゃんもかなりのもんだと思っ。

男1 お前、おばあちゃん居るの？

男3 おばあちゃん居るんだよ。

男1 おじいちゃんは？

男3 おじいちゃんは居ない。

男1 ああ、そう。

男2 なんの話をしとんだて！！おばあちゃんの話はどーでもええんだて、肉まんはどうなつたんだて！  
男3 だから今蒸かしてるとるんじゃないの？全部買い占めて来ちゃつたから。お前がたたくさん食べたいだろ  
うと思つて。

男2 もう一回買つて来いて。

男3 嫌だよ、だつてもう座つちやつたもん。もつちよつと早よお言つてくれれば行つたのに。

男2 嘘つけ、絶対行かんだろう。

男3 うん、行かんけど。

男2 行けて！！

男3 しょうがないじゃん、おばあちゃんなんだもん。

男2 おばあちゃんじゃねえ、これは中身をちゃんと確認しんかつたお前の責任だ。

男3 だつて見た目同じだよ、肉まんもあんまんも。確認したくても割る訳にいかんでしよう？そりゃあ

おばあちゃんだつて間違えちやうよ。

男2 だからおばあちゃんを責めとる訳じゃねえんだ俺は。

男1 あれ？でも、てつぺんに赤いポチポチついてなかつた？

男3 あ、それピザまん。

男1 あ、ピザまんだつて？

男3 うん、ピザまん。

男1 ピザまんか。

男3 うん、ピザまん。

男1 ピザまんだつたら良かったのに。

男3 うん、ピザまんだつたら良かったんだよ、赤いポチポチついてるから。

男1 それホントにピザまんだつて？

男3 うん、ピザまん。

男1 ピザまんか。

男3 うん、ピザまん。

男1 ピザまんだつたら良かったのに。

男3 うん、ピザまんだつたら良かったんだよ、

男2 ピザまんピザまんうるせえなお前ら。

男3 だってピザまんだったら赤いポチポチついてるからさ。

男2 ピザまんじゃねえて、肉まんの話をしとんだわ。

男1 カレーまんじゃない？

男3 いや、カレーまんは絶対違うよ。だってカレーまんは、見た目がもう黄色いもん。

男1 あ、そうだったけ。

男2 お前等どうしてすぐそうやって話を脱線させるんだて。カレーまんもピザまんも、今は全疎関係ねえのどちやうんか。

男3 うん。

男2 うん、じゃねえわ。お前は良い大人だろ。

男3 うん。

男1 良いかどうかは、微妙だよ。

男3 まあね。

男2 うるせえーちやうて、肉まんの一つも買って来れん奴なのかって事が言いたいんだわ俺は。

男3 もつ、そんなに怒るなら自分で買って来ればいいじゃん。

男2 もつ、いらん！！！！

男2、ビニール袋ごと、メガネに投げつける。

男3 あんまんもたまに食べると美味しいのに、ねえ？

メガネ え、ええ…。

男3 甘いもんね。

メガネ 甘いですね。

男2 甘いでむかつくんだわ！

男1 虫歯？

男2 虫歯なんかねえわ。

男3 (男1に) 怒りんぼさんだね。

男1 小魚食べないかん。

男3 なんか釣つてやろか、俺。

男2 黙れ。

男3 ホントに怒つとるね。

男1 もつ、さつきからずつとこんなんだよ。

男3 いかん、冗談抜きで釣り竿落ちてないかなあ、退屈たわこなん。

男1 え、何にもニュースになつとらんの？

男3 まだ早いんじゃない？

男1 そうか。

男3 か、大したニュースにはならんのでしょ今時。

男1 そうなんかなあ…。

男3 なんて？

男1 ううん。

男3 心配性なんだから。

メガネ、別のあんまんを一口かじる。

メガネ あ、

男3 ん？

メガネ 肉まんでした。

男2 なにい！

メガネ これ。

メガネ、肉まんの断面を見せる。

男2 なんてお前が肉まん食つとんだ！

メガネ いや…。

男2、袋を引つ手繰り、

男2 なんて肉まんが入つとるんだて！

男3 そりゃ肉まん買って来たんだから肉まん入つとるでしょう。

男2 どれが肉まんなんだて！

男3 ほら、解らんでしょっ？

メガネ 下の方は肉まんみたいですね。



男2 ちくしよう、運が良いんだか悪いんだかわかんねえ野郎だなあ。

と言いながら袋から一つ取り出し頬張る男2。

男2 あんまんじゃねえか、バカ野郎！

袋をメガネに投げつける。

メガネ ええ？！

男2 どうなつとんだてもー！！

メガネ あ、じゃあ、この肉まん…。

男2 そんな食べかけ居るかあ！

メガネ そうですよ。

男2 …くれ。

メガネ え？

男2 それ、くれ。

メガネ あ、はい。

男2 …。

男2、自分のあんまんと交換する。

男2 (肉まんを見つめて)…。

男3 どうしたの？

男2 …俺、潔癖症なんだわ。

男3 忙しい男だな。

男2 親からも口移しで食べ物貰った事無いのに…。

男3 それは無いよ、みんな赤ちゃんの時はあるもんだよ。

男2 俺はねえ！

男3 いやいや、あるもんだって絶対。

男2 バカ、赤ん坊の時に親が口移しとかチュウとかするもんで、おつきくなった時虫歯が多くなるんだわ。俺は親が口移ししなかったから、今虫歯ゼロなんだもん。

男1 え、そうなの？

男2 そんな事も知らんのか。

男1 そうなの？

メガネ ええ、確かにそれはそうかもしれないですね。虫歯菌の感染は1歳7ヶ月から2歳9ヶ月までに起こりますから、目安としては妊娠中から3歳になるまで、お母さんのお口の中を清潔に保つことが、虫歯菌予防にとって非常に重要と言われています。

男2 ほらみる…！…ていうかうるせえー！お前の言う事はいちいち難しいんだわ。

男3 じゃあ、なに？親からチュウされんかったの？

男2 そらそうだよ。

男3 お前、親からチュウされんかったなんて、よっぽど可愛かられとらんかったんだに。

男2 可愛かられとつたでチュウされんかったんだわ！親がどんだけ俺にチュウしたかった事か、その苦

悩がお前に解るか！

男1 ちよつと、親とチュウとかその顔で言わんでくれよ、想像しちゃつから。

男2 チュウしたいけど、おつきくなって虫歯だらけになったら可哀相だぞ物凄い我慢しとつたんだわ。

俺の親は。

男3 それは凄いやん。物凄い大事にされとつたんじゃん。

男2 だからそう言つとるがや。

男3 なのにこんなんちやつて。

男2 そんなところは俺も申し訳ないと思つとるけど…、お前に言われたくないわ。

男3 ホントに申し訳無いと思つとるんかて。

男2 思つとるわ！

男3 ホントに思つとるんかて。

男2 思つとるつて言つとるがや。

男3 だつたらもつときちんとしろよ！

男2 …なんでお前に怒られないかんだ…？ていうかなんでだて、俺は今肉まんを食べるか食べんかの問題を抱えてるんだでな。

男3 だつたらほら、早く食べないと、表面カピカピになつちゃうよ。

男2 表面カピカピとか、そういう唾液を連想させるような事言うなて！

男3 考え過ぎじゃない、それ。

男2 考え過ぎなのを潔癖症って言うんだろ。

男1 そうなの？

メガネ 潔癖症とは脅迫神経症の一種で

男2 だでいちいち聞くな！あー、どうしよ…。

男3 もう食わんときやいいじゃん。

男2 俺は朝から肉まんが食いたかったのー肉まんの口になっちゃってるのもうー肉まん以外は受け付け

ないの！

男3 ああ、そういうのあるよね。肉まんは無いけど、ラーメンとかね。

男1 カレーが一番やつかいなんだよ、カレーの口。

男3 解る解る。

男1 カレーまんの口。

男3 あ、カレーまん買ってくればよかった？

男1 カレーまん食べたくなくてきちゃった。

男2 お前等ホント…。

男2、涙をこらえて肉まんを口に入れる。

男3 あ、食べた。間接キスだ。気持ち悪。

男2 「うるせえ、肉まん食べたいと言ったら食べたの俺は！」  
と肉まんを頬張りながら言うから、何を言っているか解らない。

男3 そこまでして食わんでも。

メガネ 袋の中から、また一個取り出し頬張る。

メガネ あれ？

断片を男2に見せる。

メガネ 肉まんでした。

男2 …。

男2、へたり込む。

メガネ どうしましたよ…？

男1 もう、食つとけ食つとけ。

男2、悔しきでコンクリートに拳を叩きつける。

メガネ …あの、肉まんて、肉のまんじゅう、じゃないですか。

男3 ん？

メガネ 饅頭の、ジュウの字。あれ、どうして、頭つて書くか知ってます？

男3 …何言ってるの？この人。

男1 物知り博士なんだよ。

男3 博士？

男1 なんでも知ってるんだよ。

男3 そうなの？

メガネ いや、そんな事は…。

男3 そいで？

メガネ あの、頭つて書くじゃないですか。饅頭。

男3 おうおう、書くなあ。

メガネ どうして頭なのかというと、昔、中国に諸葛孔明という人がいます。

男3 おう、知ってる知ってる三國志な。男の子は一回は通るんだよ、三國志。

男1 俺、読んでないよ。

男3 あ、そう。ほいで？

メガネ その、諸葛孔明が発祥だと言われてるんです。

男3 嘘だ。

メガネ ホントです。昔は、戦の祈願をする時、祭壇に生首を捧げていたんですが、それだと生贄が可哀想だという事で、小麦粉で作った生地の中に肉を詰めて、生首に模して捧げたんです。だから、頭なんです。

男3 ああ、そうなの。

メガネ あと、諸葛孔明という人は、あの時代に気球の原理も知ってたんですよ。

男3 気球？



男3 だって、足の小指の爪つてさあ、ホント申し訳程度にしか生えてないじゃん。  
男1 いや、俺、ちゃんと生えてるよ。  
男3 え？ホント？  
男1 うん。

男1、靴を脱いで見せる。

男3 あ、ホントだ。  
男1 な。  
男3 え、俺だけ？  
男1 知らんけど。  
男3 あれえ…？

男3も靴を脱いで、確かめる。

男1 あ、俺も思いだしちゃった。  
男3 ん？  
男1 あーあ。  
男3 何？  
男1 俺も聞いてたんだよ。パトカーは何で白黒なのか。  
男3 パトカーの白黒…？  
男1 うん。  
メガネ あ、あの…。

男2、メガネを見る。メガネ、話したくても話せない。

男1 聞けないと忪計気になるよな。  
男3 うーん、何でなんだろうなあ…？  
男1 パンダも白黒なんだよ。  
男3 うん。  
男1 ボーダーカラーも。

男3 おお、おお！  
男1 可愛いでしょ。  
男3 可愛いなあ。  
男1 でも、パトカーは可愛くないじゃん。  
男3 可愛くないね。  
男1 なんで？  
男3 知らん。

男1 なんでなんだよ。  
男3 やっぱそりや、パトカーだからなあ。  
男1 ん？  
男3 可愛いと、困るじゃん。  
男1 困る？

男3 だって、バカにしてんのかって感じじゃない？  
男1 まあ、確かにね。

男3 俺達だって、嫌だよ、そんなパトカーに捕まるの。  
男1 でも、そっちの方がさあ、捕まる方も拍子抜けしちゃって、逃げるの忘れちゃったりして、いいか

もしれないよ。それこそまさに無駄な抵抗って感じだ。

男3 ああ、なるほどね。例えば、どんなの？  
男1 ん？  
男3 どんなパトカーだったら、拍子抜けするかなあ。  
男1 なんだろう…、例えば、サイレンが、AKBとか。  
男3 ああー、それは確かに、抜けるなあ…。

AKB48の歌が近づいて来た。

男達 …。

歌が聞こえてくる方を見て、呆然と立ち尽くす男達

暗転

波の音。

メガネが一人立っている。  
そこへ刑事らしき女性。

波の音。  
一人佇むメガネの西山警部。

女 すいません。もうすぐ車来ますから。

メガネ ああ、うん。

女 お怪我はないですか？

メガネ うん、大丈夫。

女 そうですか。でも、流石ですねえ、西山さん。人質になりながらもあんな信号送れるんですから。

メガネ え？

女 気球、ビニール袋の。

メガネ ああ。

女 流石ですよ。署長とか言っていました、あいつに銃はいらなくて。ホント、尊敬します。

メガネ …。

女 どうかしました？

メガネ 真野くん…。

女 はい。

メガネ その…、女性に対してこんな質問は、どうかと思うんだけど…。

女 なんです？

メガネ 多い日ってのは、どれくらいなの？

女 …え？

メガネ ああ、いや…、別に、無理に、その…、いいんだけどね。

女 (微笑して) そうですねえ、多い日だと…、(パチンコの仕草) 二十箱は積みますね。普通、5箱即後  
ですから。

メガネ ………………ああ、そう。

女 それが何か？

メガネ …いや、凄いな。

女 ええ、いつでもこの仕事辞められます。

女 去る。

メガネ …へー。

終

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。  
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■オイスターズ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

[theatrical\\_unit\\_oysters@yahoo.co.jp](mailto:theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp)